

前立腺癌に対するアンドロゲン除去療法中断後の腎機能の推移 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年1月7日～ 2020年3月31日

〔研究課題〕

前立腺癌に対する放射線治療後のアンドロゲン除去療法中断後の腎機能の推移について

〔研究目的〕

今回の目的は、アンドロゲン除去療法中断症例での腎機能の推移を経時的に検討し、更に腎機能障害に影響を与える因子を検索することで、新たな知見を得ることです。

〔研究意義〕

アンドロゲン除去療法は、進行性前立腺癌患者に対して主軸となる治療方法です。しかしながら、長期間にわたるアンドロゲン除去療法は、様々な有害事象を併発することが明らかになってきています。その中でも、アンドロゲン除去療法による腎機能障害の危険性の増大が報告されていますが、その腎機能障害が一過性であるのか、永続的であるのかについては報告されていません。即ち、アンドロゲン除去療法中断後の腎機能改善の有無に関しては不明瞭のままです。

今回、アンドロゲン除去療法が中断可能である放射線治療を施行した患者さんを対象とすることで、アンドロゲン除去療法中断後の腎機能の評価が可能であると思われれます。アンドロゲン除去療法が腎機能に与える影響を経時的に評価できると思われれます。

〔対象・研究方法〕

2009年1月1日から2015年12月31日の間に帝京大学ちば総合医療センターの泌尿器科において、病理学的に前立腺癌と診断された患者さんのうち、ステージBないしCで放射線治療およびアンドロゲン除去療法を施行した患者さんを対象とします。

研究のデザインは、後向き観察研究となります。

研究・調査項目；年齢、PSA(前立腺特異抗原)、テストステロン値、ホットフラッシュの有無、前立腺生検時のグリソンスコア、ヘモグロビン値、治療前の腎機能障害の有無、推算糸球体濾過量(eGFR)、BMI(Body Mass Index)、既往症、生活嗜好品について、当院の電子カルテから情報を抽出します。

〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科

〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、患者さん個人を特定できる個人情報は削除して管

理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報を利用しません。

患者さんからご自身の情報開示等の請求は個々に対応いたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 納谷 幸男 帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科・教授

研究分担者: 増田 広 帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科・講師

住所: 〒299-0111 千葉県 市原市 姉崎 3426-3

TEL: 0436-62-1211 (代表) [内線 5359]